

ほやほや

Japanese Red Cross Fukui Hospital

福井赤十字病院広報誌

vol.088

令和7年1月発行



日本赤十字社 福井赤十字病院
Japanese Red Cross Society

ご自由におとりください。

新年のご挨拶

眼瞼下垂について

教えてドクター【消化器内科】

能登半島大雨災害救護活動について

体・病院の素朴な疑問に答えます

新規導入 医療機器の紹介

院外処方せんの有効期限切れ、紛失にご注意を

訪問看護車両を整備しました

～創立100周年にむけて～福井赤十字病院 HISTORY Vol.4

調理師おすすめレシピ

調理師
おすすめ

トマト缶でつくるバターチキンカレー



カレーの具としてジャガイモは定番ですが、エネルギー量や炭水化物量が気になりますよね。そこで、代わりにトマト缶を使ってルーや油の量を減らしエネルギーを抑えました。また、鶏肉をヨーグルトで揉み込むことにより柔らかく食べやすくなります。シンプルな材料を使って、短時間で作ることが出来ますのでぜひ作ってみてください。

エネルギー制限のある方も、家族みんなで美味しいカレーを食べていただくと嬉しいです。
担当：調理師 阪本勝広

材料(2人分)

鶏もも肉(皮なし)	120g(小1/2枚)
無糖ヨーグルト	40g
玉ねぎ	1/2個
おろしニンニク	適量
おろし生姜	適量
トマト水煮缶	100g(1/4缶)
水	100cc
コンソメ(粉末)	適量
カレールー(固形)	20g(約1個分)
バター	10g(切れてるバター1個分)

栄養量(ご飯150g含む)

エネルギー	447kcal	脂質	11g
たんぱく質	18g	炭水化物	65g
		塩分	1.2g

イベントのご案内

福井赤十字病院市民公開講座

- 日時:令和7年3月9日(日)
- 講演:「変形性関節症～そのまゝにできること、なったあとに選べること～」
- 場所:福井県協ビル10F(福井県福井市大手3-7-1)
- 演者:①整形外科部長 石川正洋
②リハビリテーション科部
理学療法士 井元信彦

※詳細は院内掲示板および当院HPにてご確認ください。



開催報告(クリスマスイベント)

緩和ケア病棟でのクリスマス会

- 日時:令和6年12月18日(水)
- 地域の音楽講師6名の方を招き、トーンチャイムで全6曲を披露。患者さんたちは、素敵な音色を楽しんでいました。また、医療スタッフも「きよしこの夜」の演奏に参加しました。



第69回キャンドルサービス

- 日時:令和6年12月20日(金)

療養されている患者さんの一日も早い回復をとの願いを込め、職員がキャンドルを持ちクリスマスソングを歌いながら病棟を巡回しました。

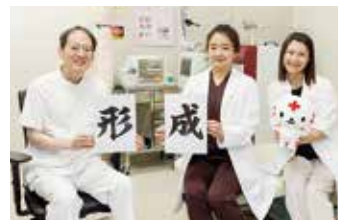


今月の表紙

傷跡についてお悩みではありませんか？

手術、ケガによる傷跡がひきつれて痛い、動かしにくい、外見が気になるといった症状で困っていませんか？手術したのだから、これくらい当たり前だと思っていませんか？

当院では、ステロイドのシール、圧迫や固定、さらには手術や放射線照射などで治療することが可能ですので、お気軽にご相談ください。



福井赤十字病院

理念

人道・博愛の精神のもと、県民が求める優れた医療を行います。

基本方針

- 患者さんの権利と意思を尊重し、協働して医療を行います。
- 安全と質を向上させ、優しい医療を行います。
- 人間性豊かで専門性を兼ね備えた医療人を育成します。
- 急性期医療・疾病予防・災害時医療に積極的に取り組みます。
- 保健・医療・福祉と連携し、地域社会に貢献します。

〒918-8501
福井県福井市月見2丁目4番1号
TEL.0776-36-3630代
FAX.0776-36-4133



広報に関する
ご意見、ご感想を
お待ちしております。



ほやほや

“ほやほや”と納得できる情報、できてきた“ほやほや”の情報をみなさまに提供していく季刊発行の情報誌です。院内の広報委員で毎回の季節に合った特集を組み、お役に立てる情報を掲載すべく病院各部門のスタッフそれぞれから原稿を集め誌面を制作しています。

謹賀新年

2025年（令和7年）



新年のご挨拶

2025年（令和7年）

院長 小松 和人

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

当院は本年に創立100周年を迎えます。この記念すべき節目に際し、さまざまな記念事業を計画しております。これまで永きにわたり当院を支えていただいた地域の皆様に改めてお礼を申し上げるとともに、次の100年に向けて、持続可能な診療機能強化を進めてまいります。

猛威を振るった新型コロナウイルス感染症は沈静化を迎え、令和5年に5類感染症となりました。当院では、院内での感染拡大を防ぎながら、同時にできるだけスムーズに日常診療を行います。さらに継続的に努力を積み重ねており、今後も対応すべく院内施設の改修を計画してまいります。

当院の求められる医療は、例えばロボット支援手術や24時間／365日いつでも最新の治療が行える脳卒中に対する加療などに代表される高度な診療

です。急性期の診療、救急診療、がん診療、外科手術、入院診療に一層注力してまいります。

地域の医療機関との連携を強化し、外来患者さんの数を20%程度減らすことを目指すと申し上げました。現在約10%の減少が達成されました。病状の安定した患者さんについては、引き続き地域のかかりつけ医の先生にご紹介を推進することといたします。

昨年10月より外来における院外処方せんの発行を本格的に稼働させました。これによって当院の薬剤師は、より緊密に入院中の患者さんとうき合える体制になります。以上のような体制の改革によって、外来での待ち時間の短縮にもつながっていきます。

このような大きな変革に伴い、ご不便やご不安を感じられることもあろうかと思いますが、当院の役割と機能をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願いいたします。

未筆ながら皆様のご多幸をお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。

がん けん か す い 眼瞼下垂について

「若い頃は意識せず目を開けていたのに、最近開けづらい」鏡を見ると、おでこにしわが寄っている「そんな症状はありませんか？これが「眼瞼下垂」です。

特に黒目の真ん中の瞳孔という光が入る部分に、まぶたがかぶさっていると見えにくくなります。スマホで写真撮る時に、指がレンズをふさぎ邪魔になることがありますよね？それと似ています。もう少し詳しく書くと、まぶたを上げる筋肉が加齢などで弱くなり、それでも目を開けようと頑張るため、おでこにしわを寄せて眉毛を引き上げることになります。これにより肩こり、頭痛などの症状を引き起こすこともあります。

眼瞼下垂は手術で改善することができます。手術方法は3種類あります。①まつ毛の数ミリ上を切開してまぶたを上げる筋肉を引き締めつつ（図1）、余った皮膚を5〜6ミリの幅で切除する（図2）。②筋肉はそれほど弱くないが、皮膚のたるみが目立つ場合

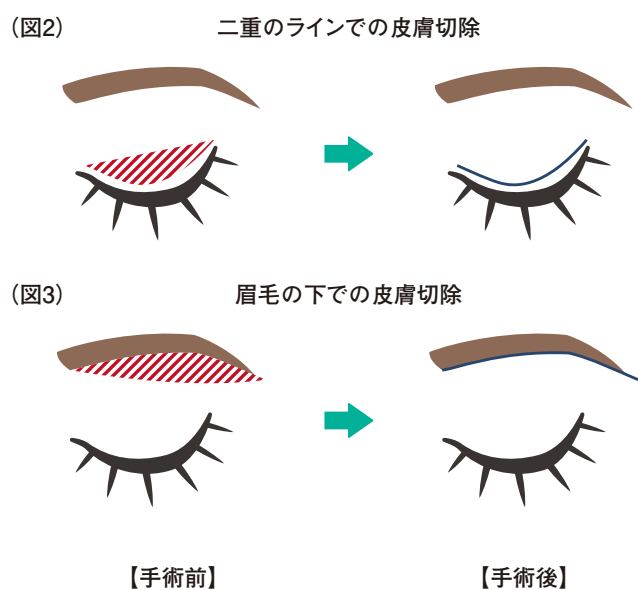
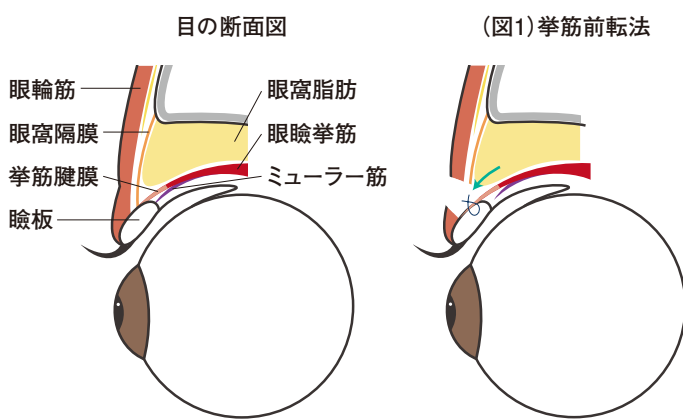
は、眉毛の下で10ミリ以上の幅で皮膚を取り除き、まぶたの重みを軽くします（図3）。③筋肉が弱っている引き締めてもまぶたが上がらない時は、眉毛を上げる筋肉とまぶたを糸や筋膜でつないで、眉毛を上げると同時にまぶたが開くようにします。

どの手術方法を選択するかは、診察や検査をしつつ相談することになります。片方の目だけ手術をするとうまくバランスがとれないこともあり、左右両方の手術をお勧めすることが多いです。なお、これは加齢などで筋肉が弱った場合です。生ま

れつきまぶたを上げる筋肉が弱いお子さんもおられます。この場合は弱視にならないように注意しつつ、時期が来たら、筋肉の動きを確認しながら筋肉を引き締めたり、糸や筋膜で眉毛を上げる筋肉と連結させることで目を開けやすくなります。



形成外科部長
岡本 仁



教えてドクター 《 消化器内科 》

Q & A

消化管の早期がんに対する治療法ってどんなものがあるの？ ここでは内視鏡治療の一つである「ESD」について専門医がご紹介します。



消化器内科副部長
西山 悟

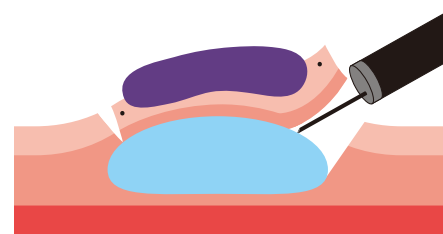
消化管の早期がんに対するESDについて

Q. ESDってなんですか？

A. ESDは「内視鏡的粘膜下層剥離術(endoscopic submucosal dissection)」の略です。

消化管の早期がんに対する、内視鏡(胃カメラ・大腸カメラ)治療の1つです。

この治療では、病変の周りを電気メスで切開しながら、病変の下層(粘膜下層)を剥離し、病変をひとつの塊として切り取ります(一括切除)。鎮静剤で寝ている状態で治療が行われるため、患者さんは、痛みやつらさは感じません。治療後の苦痛もほとんどなく、1週間程度の入院となります。ただし、多少の食事制限は必要です。



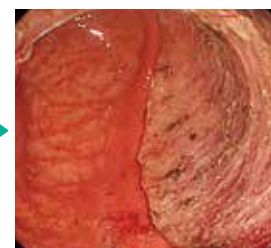
体下部後壁,0-IIa

周囲粘膜切開



粘膜下層剥離

剥離終了



Q. どんな病気で選択されますか？

A. 主に、早期に発見された、食道、胃、大腸のがんに対して行います。

大きく(深く)進行しているがんは、手術、抗がん剤、放射線治療などを行います。それらの治療は、一般的にESDより体への負担が大きく、治療期間が長くなる傾向があります。がんは早期発見が重要ですので、健康診断や人間ドックを定期的に受けましょう。

Q. どんな合併症やリスクがありますか？

A. 胃カメラや大腸カメラ、電気メスを体の中で使用するので、穿孔(腸に穴が開くこと)、治療中や治療後しばらくしてから出血などがあります。また、鎮静剤などの影響で、血圧が下がりすぎたり、呼吸が弱くなったりするリスクがあります。まれですが、肺炎や血栓症(血液の塊ができて、心臓や脳の血管に詰まる病気)にも注意が必要です。

治療決定前に、担当医とよく相談しましょう。

Q. がんを治せますか？

A. 治療で切り取った病変(標本)の断面を顕微鏡で観察し、病気の進み具合を判定(病理診断)します。当院では、消化器内科、消化器外科、病理診断科の医師が参加するカンファレンスでも判定を確認しています。その結果をもとに、「治った」や「追加の治療が必要」といった判断を行い、最終的には患者さんと相談してその後の方針を決めます。

能登半島大雨災害救護活動について

皆さんは福井豪雨を憶えていらっしゃいますか？被害に遭われた方は大変ご苦労されたと思います。そんな豪雨災害が、地震の復興途上にある能登半島を襲いました。当院からは、医療救護班1班、こちらのケア班2班が出動しました。

避難所を訪ねると、皆さん口々に「地震の方がマシだった」とおっしゃいます。

水は(泥と一緒に)家の隅々まで入り込んできてなかなか掻き出すことができません。加えて、乾燥すると砂埃になり、臭いも強烈です。感染の観点からも消毒が必要です。

地震で仮設住宅に移ったのに、その仮設住宅が浸水被害に遭った方もおられ、二重三重の苦境に立たされています。

また、一般市民だけではなく、地震・水害と続き、行政に携わる方々も疲労困憊していました。被災地の方には病気やケガなど身体的ケアに加え、心理的なケアの二つの支えが必要です。



輪島市役所リフレッシュルームでのこころのケア活動の様子

今回私たちは、被災者はもちろん、行政・公的機関の方々を対象に「こころのケア」を重点に活動しました。一日でも早い復旧・復興をお祈りいたします。

病院の災害の備えはどうなっているの？



体・病院の素朴な疑問に答えます

当院は「災害拠点病院」に指定されており、災害時には多くの傷病者を受け入れる重要な役割を担っています。この役割を果たすべく、あらゆる事態を想定し、備えの拡充や見直しを実施しています。

具体的には、入院中の患者さんの3日分の食事、職員の3日分の食料のほか、エレベーター停止に備え、各病棟に飲料水を備蓄しています。停電時、生命維持に必要な医療機器を動かすために3日分の燃料を備蓄しているほか、トイレが使えない時のための簡易トイレも準備しています。

また、物資の備えだけでなく、傷病者の受け入れ訓練を毎年実施し、受け入れ手順や搬送ルートを実際に動いて確認し、改善すべき点がないか見直しを行っています。さらに院内だけでなく、県や市町の防災訓練にも救護班として参加し、地域での救護活動の動きを検証しています。

引き続き有事の際にも地域を支える病院を目指して、災害対策をさらに充実させていきます。



令和6年11月2日に開催された災害対応訓練の様子



新規導入 医療機器の紹介

FFR-Rangio装置

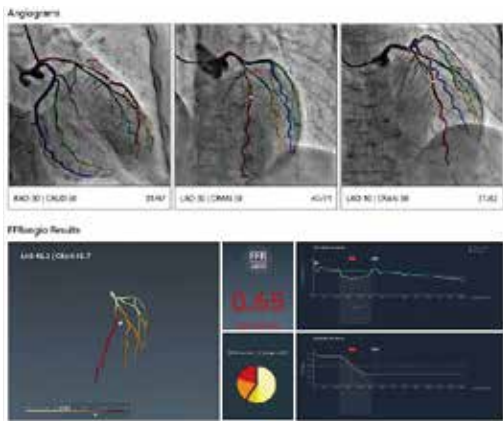


循環器内科部長
坪川 明義

狭心症は、心臓の筋肉に血液を行き渡らせる冠動脈が動脈硬化で狭窄して、一時的に心筋が血液・酸素不足に陥って（虚血が生じて）、胸の痛みや圧迫感を引き起こす病気のことです。最も確実な診断方法には、心臓カテーテル検査があります。

この検査では、手首や足の付け根の動脈からカテーテルを挿入し、冠動脈に造影剤を注入して狭窄の程度を確認することができます。しかし、この方法は冠動脈の形態評価（見た目の狭窄の程度）には優れた診断方法ですが、その狭窄により実際に心臓の筋肉に血液や酸素不足が生じているか否か（虚血の有無）は評価できません。心臓カテーテル検査での虚血の評価のためには、冠動脈内に特殊なガイドワイヤーを挿入し、薬剤を使用して、冠血流予備量比（FFR）という指標を測定する追加の検査が必要です。FFRが0.8以下になると、虚血があると判断し、経皮的冠動脈形成術や冠動脈バイパス術の適応を考慮します。

今回、当院ではThe CathWorks FFR-Rangio® System (FFR-Rangio装置・CathWorks社製)を導入し、福井県で初めて臨床の場で使



冠動脈造影の画像からFFRを迅速に測定

用を開始しました。この装置は、一般的に行われている冠動脈血管造影の画像から、AIと高度なアルゴリズムの組み合わせで解析を行い、FFRを測定することが可能となり、従来のFFR測定時に行われていた冠動脈内へのワイヤーの挿入や薬剤の使用など患者さんの負担になる検査の追加の必要性がなくなりました。冠動脈造影検査のみで、冠動脈の狭窄と虚血の有無を同時に評価できるため、より安全で迅速に、データに基づいた治療方針の決定が可能です。今後の臨床に活用していきたいと考えています。

院外処方せんの有効期限切れ、紛失にご注意を

当院では令和6年10月15日（火）より、全面的に院外処方に移行しました。お薬を院外の保険薬局で受け取る際には、下記の点にご注意ください。

①院外処方せんの有効期限は処方日を含めて4日間（土曜日、日曜日、祝日を含む）

②院外処方せんの有効期限切れや紛失した場合の再発行の費用は全額自己負担

③院外処方せんは、なるべく平日の日中の間に保険薬局へ

本館正面玄関横に院外処方せんFAXコーナーがあります。診察終了後に病院内から希望の保険薬局へ院外処方せんをFAX送信することで、薬の受け取りがスムーズになります。FAXの操作について、補助員がサポートいたしますので、ぜひご利用ください。

処方せん発行 1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
			有効期限：4日以内	期限切れ 使えません
金曜日	土曜日	日曜日	月曜日 (祝日)	火曜日

※土曜日、日曜日、祝日がお休みの保険薬局が多いのでご注意ください

訪問看護車両を整備しました （公益財団法人JKA競輪とオートレースの補助事業）

当院訪問看護ステーションは、24時間365日対応可能な体制を整えており、利用者の方が住み慣れたご自宅や地域での療養生活を送れるよう、日々活動を続けています。

このたび、公益財団法人JKAの補助を受け、訪問看護車両一台を新たに整備しました。これにより地域の皆さまへの訪問看護サービスを、より円滑に提供できるようになります。

これからも、お一人おひとりに寄り添い、質の高い看護を提供できるよう努めてまいります。



～ 創立100周年にむけて ～ 福井赤十字病院 HISTORY — Vol.4 (2000～2024) —

福井赤十字病院は2025年（令和7年）4月に100周年を迎えます。前号では1975年（昭和50年）～2000年（平成12年）を振り返りましたが、今号では2000年（平成12年）から現在に至る2024年（令和6年）までを振り返ります。

2000年代に入り病院は現在に至る組織体制・建物が整備されていきます。まず、2001年（平成13年）に総務課内にあった病診連携室を地域医療連携室として再編し、地域の医療機関との連携を一層強化する体制を整えました。2004年（平成16年）には、ヘリポートを備えた現在の本館が完成し、2月24日～25日に開催した地域住民の方を招いた内覧会には県内各地から約1,100名の方が訪れ、治療スペースや病棟を見学されたことが2月25日付の福井新聞に掲載されています。2月28日～3月1日にかけて医療機器の移転作業、3月6日～7日に入院患者さんの移動を行い、3月8日から本館での入院・外来業務が開始されると同時に電子カルテシステムを導入しました。病院開院から90年を迎えた2015年（平成27年）4月には、先進中央棟が完成。広々とした



病院全景(現在)



福井豪雨

VincciXi(ダビンチ)システムを前立腺がん手術に対して導入。その後、腎がん、膀胱がんと適用範囲を拡大し、2018年（平成30年）7月には、福井県では初となる胃がん手術、同年10月には直腸がん手術を実施、それ以降も肝がん、肺がん

とともに、避難所に避難できなかった200名を超える住民の方々を病院内に受け入れ、食料・毛布の提供を日本赤十字社福井県支部と協力して行いました。また、孤立集落への巡回診療や復旧作業に対しての医療援助を行い、8月8日までに職員延べ212名が救護活動を行いました。

福井豪雨以降も2006年（平成18年）10月の新潟中越地震、2011年（平成23年）3月の東日本大震災、2016年（平成28年）4月の熊本地震、2022年（令和4年）7月の南越前町豪雨、2024年（令和6年）1月の能登半島地震、9月の能登半島大雨などの災害に対して医療救護班、DMAT、こころのケア班などの派遣を行い、被災地での医療支援を行いました。

新型コロナウイルス感染症は、2019年（令和元年）12月初旬に世界初の感染者報告があり、2020年（令和2年）2月16日に国内での感染者が確認されて以降、感染が拡大しました。当院では、同年3月25日に福井県内で2例目の患者さんが、当院1例目の患者として入院し、治療にあたりました。それ以降新型コロナウイルス感染症の受け入れと通常診療を両立しています。

全4回シリーズで病院の開院から現在に至るまでの100年を振り返りました。今後とも当院は「結ぶきずな地域とともに」を胸に次の100年も地域の保健・医療の発展に貢献できるよう職員一同尽力してまいります。

【参考】福井赤十字病院広報誌はやほや第7号・第8号・第11号・第51号・第57号、福井赤十字病院創立90周年記念誌、福井赤十字病院年報第30巻（令和元年度）、2004年（平成16年）2月25日付福井新聞「1100人新館に興味津々 福井赤十字病院で内覧会」

